

<フィリピンってどんな国>国旗



フィリピンは日本の南にある東南アジアの島国です。飛行機で約 4 時間で着きますが、日本の南端の与那国島とフィリピンの北端の島は、約 480km しか離れていない、お隣さんです。まずフィリピンのことをよく知っていただくために、簡単に国紹介をします。

人口・・・約 8 千 7 百万人

面積・・・約 300,000km² (日本の約 8 割)

7109 の島々から成りたっていますが、名前がある島は 4600、人が住むのは 1000 ほど。ルソン島など主要 11 島で全国土の 92.5% を占め、全人口の 96% を占めます。

民族・・・マレー系が大部分(全体の 90% 程度)ですが、過去数百年で中国系やスペイン人との混血が進み、混血率は高いです。混血を悪いこととは思ってなくて、自慢するフィリピン人も多いです。また主に山岳部に少数民族が存在します。

宗教・・・カトリックが 8 割と圧倒的に占め、日曜日には皆、教会に行きます。しかし私の任地ではクリスチャン諸宗教も多かったです。

言語・・・公用語はフィリピン語(タガログ語とほぼ同じ) と英語

フィリピン語が公用語と定まるまでは英語が公用語であったため、英語がほとんど通じます。また地方ごとに言語が全く異なります。タガログ語が首都地方で使われる言語であり、マスメディア(テレビ・ラジオ等)を通じて全国的に通じるようになっていますが、人口的には 3 番目の言語です。一番話す人口が多いのはビサヤ地方(セブやミンダナオ)で話されるビサヤ語(セブアノ語)で、この地方の人は公用語に選ばれなかった悔しさがあるため、ビサヤ地方の人と首都の人が会話する際は英語が使われたりもします。私の任地パンガシナン州でも場所により言語が異なります。



首都のマニラは発展途上国とは思えない。



世界遺産の一つミャガオ教会

フィリピン語例

英語	I love you.
タガログ語(フィリピン語)	Mahal kita.
セブアノ語(ビサヤ語): ビサヤ地方共通言語	Gihigugma ko ilaw.
イロカノ語: 北ルソン島共通言語	Ay ayaten ka.
パンガシナン語: 私の任地パンガシナン州中央の言葉	Inaru taka.
ブリナオ語: パンガシナン州北部で話されている言葉	Kawanan kata.

気候・季節・・・1年を通して気温・湿度の高い熱帯モンスーン型気候。雨季(6月-10月)と乾季(11月-5月)に分かれるが、地域によって異なります。雨季と言っても、日本の梅雨のように一日中雨が降っているわけではなく、1時間程度で止むため、傘を持っていない人も多いです。尚、北回帰線と赤道の間に国があるため、日本の夏の時期は太陽が北側にあります。



学校・・・小学校6年。高校4年。大学4-6年(コースによる)。

日本の中学校にあたるものが無く、日本で中学校・高校の6年間で学ぶことを4年間で行っています。カリキュラムは月・水・金と火・木で同じ。前後期2期制で、6月-10月が前期。11月-3月が後期。乾季で酷暑となる4月-5月が夏休み。

また教科書はたいてい英語で書かれています。数学や理科も英語で学ぶため、英語がわからないと、授業についていけません。そのため授業では言葉の定義に時間を費やされず。(例えば理科の授業で「電気とは何か?」とか。)そのためフィリピンの理数科能力が低いとも言われています。

フィリピンといえばバナナ
街中にバナナの木があります

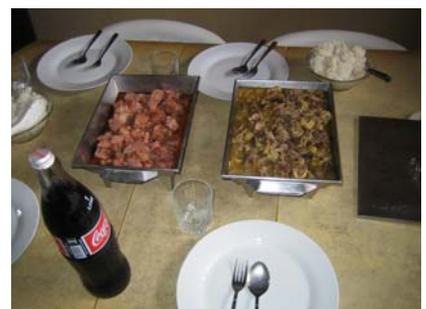


ジェンダー:フィリピンは女性がよく働きます。進学率も女性の方が高く、大学でも女性徒が多かったです。また重要な役職も女性が多く、学校の先生や校長先生も女性が多いです。

経済・・・資源に乏しく、農業・軽工業・サービス業が主要産業。700万人におよぶ海外在住労働者の送金で経済が支えられています。英語が話せるため、主に英語圏(米国・英国・中近東)に働きに行きます。家族・親類の一人は海外で働いた経験があり、帰国後、立派な家が立ったりしているので、ほとんどのフィリピン人が海外での労働を希望しています。よく、日本に連れて行ってくれ、と頼まれました。最近の流行は看護師・介護士。フィリピンの医者が看護師の資格を取って海外で働く事象も起きていて、フィリピンの医療レベルの低下が問題になっています。

私の大学の同僚(36歳)の先生の1ヶ月の給料が1万ペソ(約2万円)。単純労働作業者の日給がだいたい200ペソ(400円)

貨幣・・・フィリピン・ペソ。1ペソ=約2円。しかしフィリピン人にとっての貨幣価値として1ペソが10円にあたると言われています。(例えばマクドナルドでセットメニューを頼むと約100ペソ。通貨的には約200円ですが、フィリピン人にとって日本の1000円にあたる食事です。)



食事・・・主食は米で、日本と同じように米を炊きます。全体的に甘い料理(砂糖を多く使う)、材料を切り刻んだ料理が多く、また味の素をよく使います。食事はスプーンとフォークで食べますが、古い習慣から手で食べる人がまだ多いです。

ある日の食卓。フィリピン人はコーラが大好き

衛生・犯罪・・・フィリピンで最近、有名なのは狂犬病です。私たちは赴任前に狂犬病の映像を見せられているので、街に居る犬(たいてい放し飼い)には近づきません。また赴任前にワクチン接種をしています。他に蚊が媒介で伝染するデング熱という病気もあります。1年中、蚊はいますので、1年中防蚊ローションを塗っていますが、私の任地は養殖池が多いこともあり、ほぼ毎日、蚊に刺されました。

尚、フィリピン北部では犬を食べます。非合法ですが、ご馳走で、クリスマス・年末年始には犬の数が減少します。

私は赴任時、下痢で入院しました。それからマンゴーアレルギーや虫アレルギーに悩まされました。

歴史・・・16世紀からスペインに占領されました。その後、20世紀に入りアメリカの植民地となりました。第2次世界大戦で日本に占領されました。よって私に会うまで、日本人は怖いというイメージをもっていた人もいました。また、赴任して時々、第2次世界大戦の日本軍兵の非道な行いの話になりましたが、「それは韓国人がやった。」と、かばうフィリピン人もいたりします。フィリピン・ホスピタリティにだいぶ助けられました。日本人バッシングに会ったことは一度もありません。

尚、フィリピンで有名な日本人は山下財宝の山下将軍です。よく財宝の地図があるから訳してくれ、とか、山下財宝の地図をもっていないか、と言われるます。

文化・・・歴史上、長い間スペインに占領されていたため、言葉はスペイン語の影響が濃く、またスペイン文化が濃いです。またアメリカ文化の影響も強いです。他人を受け入れる許容性がとても大きく、人と人の距離が近く、フレンドリーです。またフィリピン人はカラオケ(フィリピンではビデオケと言います)が大好き。



交通・・・多くの島で構成されるため、鉄道網がほとんど発達して無く、船・飛行機網が発達しています。また島内の移動はバスが中心で、日本の中古バスを多数見かけます。また日本の中古トラックも多いです。フィリピンは左ハンドルですが、ちゃんと改造して使っています。またフィリピンの代名詞的な乗り物として、ジープニーとトライシクルがあります。ジープニーはジープを乗り合いバスに改造したもので、トライシクルはオートバイにサイドカーをつけたものです。フィリピンは暑く、フィリピン人は汗をかくことを嫌うため、ちょっとした距離もトライシクル等に乗ります。またフィリピンにはバス停が無いので、好きな位置で乗り降りができます。トライシクルやジープニーの初乗りは 7.5 ペソ(15 円)。2 年前は 5.5 ペソで、昨今の石油価格の上昇に合わせて値段が上がっています。尚、タクシーは大都会にはありますが、私の任地にはありませんでした。



ジープニー。よく日本のアニメが描かれている。



トライシクル。
牛も車道を歩きます。

インフラ・・・任地では水道はあったのですが、水が黄色で、飲用水は購入していました。また電気もありましたが、電気代は日本並みに高いのに、よく停電しました。計画停電といって 1 日停電することもあり、その日は仕事にならず、フィリピン人も停電すると昼間から飲んでいました。

フィリピンでの協力隊の活動の歴史・・・フィリピンは最初に協力隊が派遣された国の一つで、40年の歴史があります。ですから JICA の知名度も高く、私の赴任地でも、あれは JICA が寄贈した、JICA の人と働いたことがある、という声をよく聞きました。



バイクに子供とやぎと。

<私の協力隊の活動>

職種・・・冷凍機器・空調という職種です。日本で約 6 年間空調機器メーカーに勤めていました。

任期・・・2004 年 12 月～2006 年 12 月の 2 年間。

任地・・・首都マニラのあるルソン島の北部のパンガシナン州(人口 200 万人)の州都リングエン(人口 10 万)。首都から約 200km。マッカーサーがルソン島に再上陸した地点でもあります。

ちょうど良い田舎で、外人向け観光地も無いため、外国人が少ないため、外国人である自分は目立ちました。(たいてい韓国人と言われますが)ただ、外国人であるために嫌な思いをしたことは無く、逆に外国人に対して大変親切にしてくれるので、助かった気がします。街を歩けば、すぐ声をかけてくれます。また子供が大変多く、(たいてい 5 人兄弟姉妹以上います。)子供は人懐っこく、その笑顔には癒されました。街をジョギングしていると、子供がついてきたりします。



配属先・・・パンガシナン州大学リングエンキャンパス工学部の電気学科の冷凍機器・空調クラス。

パンガシナン州大学はパンガシナン州唯一の公立大学でパンガシナン中から学生が来ます。パンガシナン州内に 8 つキャンパスがあり、リングエンはメインキャンパスで学生数は約 3000 人。授業料が安い(半期 6000 円程度)ため、私立の大学に通えない貧しい学生が多く来ます。



大学正門

活動内容・・・要請内容は、冷凍機器・空調クラスの改善。要は、エアコンや冷蔵庫の仕組みを教える教室の改善です。大学はどちらかというと日本の職業訓練学校に近く、講義とともに実習も行う学校でした。

私を呼んだ先生(カウンターパート)は、大学で教え始めて、4 年目の若手でした。(赴任当初 34 歳)最初に教室に入った際、机と椅子と壊れたウインドウエアコンと冷蔵庫が散乱していました。工具や機器はほとんど無く、カウンターパートの私物ばかりでした。そこで、まず現状を調査し、カウンターパートと話し合い、2 年間の活動計画を立てました。そして提案書を作成し、予算申請とともに、学長に提出しにいきました。通常、簡単には大学の学長なんて会えないでしょう。ただトップダウンの強いフィリピン。何をやるにも学長の認可が必要です。そこは外国人である自分を生かして、カウンターパートと会いに行き、認可をもらいました。本当にフィリピン人は外国人に対してやさしい



配管溶接の実習



モータ巻きの実習。フィリピンは壊れたものは何でも直します。

です。

実際には認可後も大学のいろいろなセクション(予算・購買などなど)をフォローしなければならず、苦勞しましたが、教室内にスモールオフィスを作成し、様々な工具や計測機器を揃えました。また冷凍機器・空調の仕組みを教えるための教材作りも行いました。

- ・壊れたエアコンや冷蔵庫を分解して部品展示
- ・壊れた冷蔵庫の部品を組み合わせてアクリルガラスで中身が見える冷蔵庫。実際に動かして実習ができます。
- ・中古のウインドウエアコンを改造して、電気回路が学べるとともに、冷媒回路が勉強できる教材。実際に動かすことができます。
- ・セパレート型エアコン(室内機と室外機が別々のユニット)の仕組みを学べる教材。圧力計や温度計が据え付けてあり、実際に動かして、運転点を学ぶことができます。

苦勞したのは、材料や部品が予定通りに購入できなかったことですが、最初に予定していた教材は作成することができました。また冷媒の大気放出は環境に問題ですが、冷媒回収機を購入する予算が無かったので、自分で設計して製作もしました。

また新しい教科書を作成して、実際に学生に教えたりもしました。授業は専門用語も多いので、英語で行ったのですが、日本の学生より英語は話せますが、やはりお互い第2外国語であり、最初は苦勞しました。わからなくても遠慮から質問が無いので、細かく小テストを行って、確認しながら授業を行いました。

生徒はとても人懐っこく、いつも笑顔で接してくれました。フィリピンは常夏の国です。まだまだ一般家庭にはエアコンは普及していませんが、これからどんどん普及していくと思います。年中利用するので、故障率は高いので修理の知識は必要ですし、電気代がかかるので、省エネの知識も必要です。この大学でエアコンや冷蔵庫の知識を得て、社会・生活で役立ててくれる生徒が一人でも多く出てくれれば、と思います。



赴任当時(2年前の教室)



製作した教材を説明するカウンターパー



授業風景



学校の外の出店に群がる高校生



朝の水汲み。子供たちは本当に家庭の手伝いをよくします。



大学の生徒

